

薬の伝言板 ～吸入薬～



No. 252 2018年11月

丸子中央病院 薬局

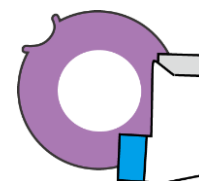
皆さんは吸入薬を使用したことはありますか？喘息や慢性閉塞性肺疾患（COPD）などの呼吸器疾患の治療や発作の予防、またインフルエンザの治療でも吸入薬を使用します。吸入薬を使用する際に大切になってくるのが吸入器の使い方です。吸入方法が不適切であると、十分な効果が期待できません。そのため、正しい吸入方法をしっかり理解することが大切です。

○吸入薬の特徴

吸入薬は、飲み薬や注射薬と異なり気管支に薬が直接届くため、ごく少ない量でも効果が得られるように作られています。また全身に吸収される量が少ないため、全身性の副作用も少ないと考えられています。

○吸入器の種類

吸入器の種類は、大きく加圧噴霧式定量吸入器（pMDI）とドライパウダー定量吸入器（DPI）とに分けられます。



加圧噴霧式定量吸入器（pMDI）

特徴：吸入器のボタンを押すと1回分の薬液がエアゾールとなって瞬時に噴出する仕組みになっています。このため、吸入する時は、薬の噴霧と薬を吸い込むタイミングを合わせる必要があります。薬を吸い込むタイミングを合わせることが難しい場合や、吸入器のボタンを押す時に指の力が不十分な場合には吸入補助器具もあります。

当院採用薬：メプチンエアー

ドライパウダー定量吸入器（DPI）

特徴：粉末の薬剤を、自分で吸い込むタイプの吸入器です。このため、pMDIのように吸入のタイミングを合わせる必要はありません。しかし、小さなお子さんや呼吸機能が低下している場合は使用が難しく、口の中に薬が残りやすいという欠点があります。

当院採用薬：アドエアディスカス、シムビコート、フルタイドディスカス、オンブレス、イナビル

○吸入方法

加圧噴霧式定量吸入器 (pMDI)

- ① 薬を準備します・・・各吸入薬の操作方法に従ってください
- ② 吸入器をよく振ります・・・薬と噴霧ガスをよく混ぜます
- ③ 息を吐きます・・・吸入器に息がかからないよう、苦しならない程度に息を吐きます
- ④ ボンベを押します・・・吸入口を軽くかんでボンベを1回押します
- ⑤ 深く吸入する・・・ボンベを押すのと同時にゆっくり深く吸い込みます
- ⑥ 息を止めます・・・口を閉じ、5秒程度無理のない程度に息を止めて、鼻からゆっくり息を吐きます

1回に2吸入以上の指示がある場合は①～⑥を繰り返してください

- ⑦ うがいをします
- ⑧ 容器の口の部分は、ティッシュで拭くなどして清潔にしてください

ドライパウダー定量吸入器 (DPI)

- ① 薬を準備します・・・各吸入薬の操作方法に従ってください
薬がこぼれないよう、容器は傾けないよう注意してください
- ② 十分に息を吐きます・・・吸入器に息がかからないよう、苦しならない程度に息を吐きます
- ③ 勢いよく深く吸入します・・・吸入口をしっかりとくわえたら、勢いよく深く吸い込みます
- ④ 軽く息を止めます・・・口を閉じ、5秒程度無理のない程度に息を止めて、鼻からゆっくり息を吐きます

1回に2吸入以上の指示がある場合は①～④を繰り返してください

- ⑤ うがいをします・・・口の中、のどの奥までうがいをします
- ⑥ 容器の口の部分は、ティッシュで拭くなどして清潔にしてください

○吸入ステロイド薬とうがい

吸入ステロイド薬の副作用には口腔カンジダがあります。うがいを行い、薬を口腔内から取り除くことによって口腔カンジダは予防できますのでしっかりうがいを行ってください。うがいができない場合は、水などを飲んだり、食前に吸入することでも予防できます。



吸入薬を使用していて使い方が分からない方、吸入薬が正しく使用できているか不安な方は、お気軽に薬局窓口へご相談ください。

喘息をしっかりとコントロールするには継続した治療が必要となります。症状が治まっているからといって、自己判断で治療を中止しないようにしましょう。

